



きみよし/1931年生まれ。成人した一男一女の父親。聖書神学卒。センド宣教団協力牧師。長野県佐久市在住。

「息子は中学の時から不登校になりがちで、高校も途中で行かなくなり、ますます自分の部屋から出なくなっています。」

夫は怒ったりどなったりして、息子がアルバイトか学校に行くように押しつけますが、そうされる息子もますます自信を失い、内にこもります。将来が見えて来なくて、考えれば考えるほど暗くなります。どうしたら良いでしょうか。

A

不登校とか部屋に閉じこもるという若者について、よく聞いてはおりました。この度のご質問を受け、参考に読んだ本によれば、何とその人数は八十万から百万人に達するだろうとありました。十代から三十代の人口を仮に三千万人(?)と考えるなら、三十人に一人という割合になります。これはもう、異常な数という他ありません。さらに、どちらかと言うと男性が多く、もっと驚いたことは、世界で日本だけに見られる現象だと言うのです。これは放置してはならぬできごとです。今の時代とか社会の抱えている病巣のようなものがあるにちがいない。私なりに、それを凝視し、同時に親としての視点に立って何をすべきか、何ができるかを見ることにします。

人間関係のぶつかり合いと言わうか、その交わりの希薄さというところが、まず第一の原因として考えられます。今は、一人っ子が珍しくありません。兄弟がいても二人きりの家がほとんどでしょう。だから家庭で同年代、また自分以外の人との交流を経験することが少なくなっています。加えて、便利な器具に取り囲

まれ、人とあまり話し合わなくても時間が過ごせます。私の体験を申し上げれば、私は幼少年期に親なし子でした。友だちと遊んだことがありません。その結果自転車に乗れない(乗れたのはなんと十八歳になってから)、水泳ができない、体操が不得意、運動会は死ぬほど嫌い、代用食(死語かしら?)の弁当がみなの前で食べられない。つまり、自分を客観的に扱ったり、自分の失敗を笑って受け入れたりできない、精神的に不健康な子どもでした。恥ずかしくて不安で、いつも何かおびえているような者でした。時々学校を休みました。だって勉強も興味をひかず、友だち関係がうまくできなかったからです。その当時、「ずる休み」と言って、それは悪いことでした。

そんな私が何かやってみたり、また学校に戻れたのは、まわりの人たちが、戦争と生活に追いまくられて、私の事あまり大騒ぎしなかったからかもしれない。しかし、私の偏屈な人間観やいじけた自己意識は、ずっと心に持ち続けたままだったのです。別の意味で、今の社会や教育環境は大変ですね。画一的な価

値基準が押しつけられます。経済、成功、能率一辺倒になってはいませんか。自分の特質や個性は認められ難いし、尊ばれない風潮が強いです。自分に自信が持てないし、自分の大切さを見失ってしまうし、結局、気力までなくしてしまうことになり

ます。「人間は一人思想する個人」ではなくて「他の者との関係の中で存在する、共に生き合う者である」という哲学者のことはありますが、私は全く同感です。人間は、だれかに救われ受け入れられているという安心感がないと、やって行けません。そうでないと、ただ自分だけでやるしかないという緊張感でコチコチになり、それがうまく行かないと、ますます自分が嫌になり、自分を拒絶したりしてしまします。自分の居場所が見つ

からず、家庭にいても親なし子みたいになり、友人や社会の中で孤児となっ

てしまうのです。

聖書の中でそんな人物像がはたして登場するのかしらと考えるてみました。似たような例のいくつかを挙げてみます。

神のことはにそむいて身を隠したアダムとエバ。あまりの大使命に後戻りし、言い訳をするモーセ。死の恐れと迫害に、逃げ出して隠れたエリヤ。自分の思った通りにならないで、すねたヨナ。などなどが思い浮かびます。ところが神は、いずれの場合も忍耐強く、静かにやさしくなだめるように話し、接し、慰めておられます。

ここで、いくつかの対処法を申し上げます。

お父様の心情をよく分かりますが、ぜひ声の調子を和らげて、息子さんの心の中にあることを聞き出してあげるようにしてください。一歩、できれば二歩くらい距離を置き、息子さんを冷静に見守り、自分たちの子どもでありながらも一人の別人格であることを認めてあげてほしいのです。全部理解できなくてもよいです

から、本人の心のやり切れなさ、もどかしさを聞き取り分かち合せて頂けないものでしょうか? 思春期の子どもとして、人生とか勉強とかその意味を考えているはず。また異性に対する感情や性に関する情報で、心が乱れている可能性も大あります。社会の不正や矛盾に、迷ったりしているかもしれません。

親離れ、同時に子離れの時期を迎えています。誰だって、親として100%の人はいません。しかし、自分なりに一生懸命やって来たはず。足りなかった点は、正直に神の前に悔い改め、主の赦しを得、将来の希望を持ち続けましょう。

イエス様の親離れと思われる記録が、ルカの福音書2章41節以下にあります。「十二歳になられたとき」とあります。ユダヤの若者にとって、成人式のような年代のときでした。その終わりにこうあります。

「イエスはますます知恵が進み、背たけも大きくなり、神と共に愛された」(52節) イエス様の四つの成長について記されています。知識、身体、信仰、人間関係の四方面での成

長が、バランスよく保たれていますね。これは模範です。

昆虫は、脱皮して変態成長します。じつと見ているしかありません。苦しうに見えても手を出せません。むしろ、手伝わてはいけません。長い時間をかけて自分で殻を抜け出すしかありません。時間をかけて息子さんを見守り、息子さんが自分を確立し、自分で責任を負い、果たすようになるのを待ち望むのです。

ただし、目を離さないでください。注意と関心はそのままだ、むしろご両親は子離れのときが来た事を自覚し、自分自身の向上、充実、満足など、生活と人生の目標を定め、日々過ごされるようになさってはいかがでしょうか。

片方の眼では自分の感性を磨く方向を見つめ、もう一方の眼では息子さんのほうを見つめてください。心が通いあうように努めながら、よい機会を与えられたら、彼の感性と関心がどういう方向にあるのかを、いっしょに見つけ出すようにしてください

さつたらと願っています。自然界には、偉大で美しい、そして驚くべきほどの知恵が満ち満ちています。音楽や色彩の調和や美しさはどうですか。そして、よい友だちの与えられる事の重大性は、言うまでもないことです。学校、教会、地域、サークル活動などで、息子さんのお友達が見つかりませんか。

もし息子さんが、事故などで重傷を負われたら、ご両親はぎつと思われましょう。「どんなに時間がかかっても、きつと直るまで助けてやろう!」そうです。時間がかかると思ってください。そして、ご両親も、このことにより、魅力的な夫婦となる生き方を求めてください。

質問募集

編集部では、皆さまからのご意見や感想をお待ちしています。また、皆さまからの内藤師への、家庭生活に関するご質問やご相談をお寄せください。 home.office@ffj.gr.jp TEL&FAX045-933-3875